

地

地球温暖化予測研究の東大海洋研、横山准教授 湾小で出前授業 ～日本最大級のハマサンゴ発見～

喜界島のサンゴを調査し、将来の気候変動予測を研究している東京大学海洋研究所の横山祐典准教授ら調査団が6月10日、湾小学校（小林博宜校長、児童数293人）を訪れ、「地球のことをもっと知りたい！～カギを握る喜界島～」と題して5、6年生を対象に出前授業をした。



児童らに講義する東大、横山准教授

横山准教授ら調査団は、幅広い年代のサンゴが存在する喜界島に注目し、環境省地球環境研究推進プロジェクト「サンゴ骨格による古気候復元と大循環モデルの統合による気候値復元と予測に関する研究」の一環として、去年は花良治海岸や百之台などの陸地にあるサンゴを、今年は6月6日～11日の6日間、海中サンゴを調査・採取している。

昨年の調査では百之台から約12万年前、海岸線からは約6千年前のサンゴのサンプルを採取し、今回は海中で調査に適したダンゴ状に成長するハマサンゴを採取した。

特に今回、荒木沖で



世界最大級、荒木沖のハマサンゴ
(横山准教授提供)

採取されたハマサンゴは直径が約4cm、高さ約5cmで、約400年前から成長し続け、現時点で世界最長の個体とされる。

出前授業で横山准教授は、現在調査中の気候予測研究について「大きくいえば地球惑星科学に分類されます」と紹介し「問題になっている地球温暖化は地球の歴史上では決して珍しいことではないが、人類が誕生してからは初めて」、「サンゴは木の年輪のように一年毎に成長の跡を残す。サンゴを調べればその時の気候状況が分かる。それらを基に将来の気候変動を予測します」と説明した。

その他に、「なぜ恐竜は絶滅したか?」「地下千メートルに生物はいるか?」などのクイズゲームや、サンプル採取用のドリルの操作体験などもあった。

授業終了後に志村龍海君（6年）は「島のサンゴで地球の気候がわかると知って驚きました。忙しい中、色々教えてください有り難うございます」と話した。



採取されたサンゴのサンプル
刻まれた年輪が見える

話シマの 題